

能楽研究所彙報(昭和49年1月～50年3月)

雑誌名	能楽研究：能楽研究所紀要
巻	2
ページ	157-160
発行年	1976-02-20
URL	http://hdl.handle.net/10114/00020260

能 楽 研 究 所 彙 報

(昭和49年1月～50年3月)

紀要「能楽研究」の創刊

研究所発足以来の所員の念願だった研究紀要の発行がようやく実現し、『能楽研究』と題した紀要の第一号を、昭和49年10月31日付で発行した。A5版一六〇頁で、内容は次の通りである。

『能楽研究』発刊の辞	香西 精	一
観阿弥生国論再検	香西 精	二
多武峰の猿楽	表 章	三
能楽研究所蔵「 <small>鶯流</small> 水野文庫」目録	古川 久	三
研究展望(昭和47年)	片桐 登	三
能界展望(昭和47年)	西野 春雄	三
能楽研究所彙報	一五	

所外の研究者からも寄稿を仰ぐ方針を採り、第一号には能楽研究所の顧問でもあられる香西精氏の玉稿をいただいた。表所員の論考は98頁に及ぶ長大なもので、分載予定であったが、合議の上で一括掲載したものである。六百部を作り、大半は各大学や研究者、能楽関係者に寄贈し、一部を実費で頒布したが、希望者が多く、すでに品切れになっている。

なお、紀要は年一回発行の予定で、能楽研究所の蔵書目録も、寄贈・寄託の分を優先しつつ、順次掲載するはずである。

能楽資料集成の発行

わんや書店と提携して昭和48年から刊行を開始した「能楽資料集成」は、既刊の二冊(『下間少進集Ⅰ』『細川五部伝書』)に続いて、左の二冊を刊行した。

『下間少進集Ⅱ』(昭和49年10月20日発行)

古川久所員の校訂で『炭連江間日記』『少進聞書』『少進能伝書』の三書を翻印した。底本は三本とも能楽研究所の所蔵本である。当初本冊に加える予定だった『叢伝抄』は頁数の関係で第三冊に廻した。解説は表章・西野春雄両所員が共同で執筆した。B6版、二七四頁。会費一八〇〇円。

『法音抄Ⅰ』(昭和50年3月20日発行)

表章所員の校訂で、正徳四年刊の謡曲仏語解説書『法音抄』(全五卷)の巻一・巻二の分を縮写影印(オフセット印刷)した。底本には伊藤正義氏所蔵本と能楽研究所蔵本を併用した。第二冊に巻三・巻四の分を、第三冊に巻五と解説・索引を収める予定である。B6版、二五二頁。会費一八〇〇円。

観世宗家所蔵文書目録

昭和47年4月号以来雑誌『観世』に連載している「観世宗家所

蔵文書目録」は、「四、室町期上掛り謡本」「五、室町期下掛り謡本」「六、軸物の類」を、同誌49年7・8・9・10・12月、50年1月の各号に引き続いて掲載した。続いて江戸期の文書に入る予定である。

科学研究費補助金の交付

昭和49年度文部省科学研究費補助金（一般研究C）に申請した「近世能楽史の総合的研究」（研究代表者表章、研究分担者表章・西野春雄・片桐登・古川久）が採択され、八〇万円の補助金が交付された。47年度（二二〇万円）・48年度（七二万円）と三ヶ年連続した補助金の交付によって、フィルムリーダー、モータードライブ等の備品を整え得たのみならず、観世宗家・宮城県図書館・九州大学付属図書館・長崎県立図書館・熊本大学付属図書館・北海道開拓資料館・鴻山文庫・檜常太郎氏・梅若六郎氏など、諸機関・諸家所蔵の能楽関係文書を広く調査し、36枚撮りフィルムに換算して一千本以上の資料の撮影ができて、江戸時代の能楽の研究に明るい見通しが持てるようになった。その成果はすでに所員の論考に現れている。

〔所員研究業績〕

表 章

『世阿弥・禅竹』日本思想大系（加藤周一氏と共著）岩波書店	49・4
『法音抄Ⅰ』八能楽資料集成4Ⅴ（校訂）わんや書店	50・3
南都雨悦びノ能 百々裏話100	鍬仙220号 49・3

「百々裏話」攔筆の辞

「女郎花の古き謡」考

作品研究「葵上」

多武峰の猿楽

申ハカリナク候 研究・十二月往来④

西野春雄

作品研究「玉井」

資料紹介『三つたり』

「七夕」雑考 研究・十二月往来①

作品研究「三井寺」

能界展望

信光の能（上）

片桐 登

研究展望

廃曲〈武王〉の作者 研究・十二月往来⑤

能・狂言文献要覧⁹¹100

（49年1346791112、50年12月号）

古川 久

『下間少進集Ⅱ』八能楽資料集成3Ⅴ（校訂）

『草枕』と能

狂言信濃路を行く

金剛の勧進能番組

梅若実述・能楽の話一々五（校訂）梅若204〜208号

驚流 狂言 水野文庫目録

鍬仙222号 49・5

観世7月号 49・7

観世8月号 49・8

能楽研究1号 49・10

鍬仙230号 50・3

観世1月号 49・1

能研究と評論3号 49・1

鍬仙223号 49・6

観世9号 49・9

能楽研究1号 49・10

芸能史研究48号 50・1

能楽研究1号 49・10

鍬仙231号 50・3

観世49・1〜50・2

わんや書店 49・10

宝生4月号 49・5

信濃路8号 49・6

金剛89号 49・7

49・7〜50・3

能楽研究1号 49・10

〔受贈図書〕

単行本（受入順）

狂言集成 野々村戒三・安藤常次郎共編 * 能楽書林
 芸能の科学 5 芸能論考Ⅱ

* 東京国立文化財研究所芸能部編 平凡社
 能絵鑑 * 中村保雄・武田恒雄著 フジアート出版

カラー能の魅力 * 中村保雄・今駒清則著 淡交社
 世阿弥・禅竹△日本思想大系△ * 表章・加藤周一著 岩波書店

能舞台の歴史 安芸の国の能 * 竹内善幸著 私家版
 狂言史研究 * 小林責 わんや書店

沖縄文化研究 1 * 法政大学沖縄文化研究所編 法政大学出版局
 日本の美と心 4 鎌倉△室町 * 学習研究社

未刊謡曲集二十二△古典文庫△ * 田中允編 古典文庫
 能の美 * 松田存著 鹿島研究所出版会

町田市史 * 町田市史編纂委員会編 町田市
 連歌論集 能楽論集 俳論集△日本古典文学全集△

伊地知鉄男・* 表章・栗山理一著 小学館
 謡曲作者の研究 小林静雄著 * 能楽書林

壬生寺民俗資料緊急調査報告書 △第二分冊△①元興寺仏教民俗資料研究所
 千本えんま堂大念仏狂言台本千本えんま堂資料 1 * 森康尚編 私家版

狂言面附装束と小道具 ②野村万蔵著 わんや書店
 万有百科大事典 3 音楽・演劇 * 小学館

庶民生活の上昇△日本生活文化史△ 編集代 表委員 松本新八郎 * 河出書房新社

図書寮叢刊 詞林金玉集（下） * 宮内庁書陵部編 明治書院

雑誌その他

△*印は寄贈者。①は森康尚氏、②は古川久所員からの寄贈△
 青山語文 第4号 青山学院大学日本文学会

跡見学園国語科紀要 第22号 跡見学園

上野学園創立七十周年記念論文集 上野学園大学・短期大学

梅 若 第198△208号（49・1△50・3） 梅若会

華 泉 第22・23号 狂言和泉会

観 昭 第5巻1△6巻3号（49・1△50・3） 観昭会館

観 世 第49巻1△50巻3号（49・1△50・3） 檜書店

学芸国語国文学 第5号 東京学芸大学国語国文学会

学習院大学国語国文学会誌 第16・17・18号 学習院大学国語国文学会

喜 多 49年秋号・50年春号 十四世六平太記念財団

きたぐに 第55△69号（49・1△50・3） 北国川柳社

橘 香 49年1△50年3月号 梅若研能会

狂 言 第160△168号（49・1△50・3） 名古屋狂言共同社

狂言研究 第2号（終刊号） 東京大学狂言研究会

京 都特集・能の舞台 第285号 白川書院

研能通信・能 第191△205号（49・1△50・3） 大阪能楽観賞会

現地の声一九七三年海外公演記録と反響 国際交流基金

国文学漢文学論叢 第19号 東京教育大学文学部

国文学研究資料館報 第3・4号 国文学資料館

金 剛 第88△90号（49・1・7、50・1） 金剛雜誌会

書陵部紀要 第25号 宮内庁書陵部

人文研究

第25巻7号

大阪市立大学文学部

清葉

第3～7号 (49・1～50・1)

清葉会

説話

第5号

説話研究会

鍊仙

第218～231号 (49・1～50・3)

鍊仙会

伝統芸能

第222～236号 (49・1～50・3)

京都伝統芸能懇話会

日本文学

第23巻11号

日本文学協会

能スケジュール

49年1～50年3月

観世能楽堂

能研究と評論

第188～203号 (49・1～50・3)

京都観世会館

能楽の友

第3・4号

月曜会

能楽評論

第84～99号 (49・1～50・3)

能楽の友社

文林

第2～8号

能楽評論

宮城教育大学国語国文

第5・6号

宮城教育大学国語国文学会

武蔵野女子大学能楽資料センター紀要

第2・3号

坪内博士記念
早稲田大学演劇博物館

第27・28号

武蔵野女子大学能楽資料センター
坪内博士記念
早稲田大学演劇博物館

閲覧規程

○閲覧できる人

大学生・大学院生・研究者・一般利用者。要

紹介。学生・大学院生は指導教授または所属大学研究室・図書

館の紹介状を必要とします。

○閲覧日、閲覧時間

原則として火・木・土曜日の午前9時30

分から午後4時まで。ただし土曜日は午前中。

○予め調査目的・閲覧希望図書を電話等で連絡してください。

〔編集後記〕○創刊号後記に例年十月刊行を約束しながら、第二号が二月末になったのは、予期せぬ観世新九郎家文庫寄託という出来事があった、その整理と目録作成に追われたためである。同文庫の目録を今号と第三号に分載することにしたため、前号後記に予告した般若窟文庫の目録は、第四号以後に変更せざるを得なかった。○表の論考は、科学研究費補助金を受けた「近世能楽史の総合的研究」の成果の一部で、次回で完結する予定である。西野所員の論考は「能楽資料集成」の『下間少進集』Ⅰ・Ⅱの解説を補完するものである。それをも御参照いただきたい。古川所員の紹介した梅若家文書は、明治能楽史研究上の貴重資料である。○寄託された観世新九郎家文庫は、予想以上に研究資料として有用である。大方の御利用をお待ちしている。(51・2・2表章)

昭和五十一年二月二十日 発行

能楽研究 第二号

編集兼
発行者106 東京都港区南麻布二一八―四
野上法政大学能楽研究所
記念
所長 鈴木幹人

○三一四五三一四〇二九

印刷所

三和印刷株式会社
長野市川中島一八二二―一